

# 「校種間・地域連携を生かした環境教育の推進」

## 滋賀県立八日市南高等学校

### 学校と地域を結ぶランドスケープコーディネートの実践例 part2.

### 高校生の支援活動を通して環境整備活動に取り組む。

はじめに

私たちの身近な緑の空間には「自然」という言葉に対して、人間の意図的な「自然風景」も含まれる。現在、環境保全についての基本的な共通理念として「持続可能」という言葉が、国際的に広く認識されている。このように、「緑の空間」を創造するには持続可能かどうかがまず問われる。

このことから環境のとらえ方も「循環」・「生物多様性」・「生態系」・「共生」・「有限性」・「保全」と多面的な方向から活動することが大切である。今年度「緑地デザイン科」では、これまでの活動実績に加え、学年ごとに継続した環境教育に取り組んでいる。

活動目標

校種間連携による環境学習プログラムの開発と地域のリーダー育成。

地域資源を活用した環境学習の手法と環境教育コーディネートができる人材の育成。

私たちは、平成 19 年 4 月滋賀県環境学習支援センターから地域コーディネートによる共同活動の依頼を受け、能登川南小学校 5・6 年生の猪子山森林再生整備活動を実施して 6 年目となる。これまでの活動では、まず、小学生に猪子山という自然を理解し、後世につなげる手だてとして

「猪子山の生態環境を知る活動」の取組。

次に猪子山の里山の荒廃問題を解決して考える手だてとして

「児童へ問題意識を育くむ活動」の取組。

さらに竹の伐採から竹チップやコップ作りなど加工し、利用する手だてとして

「竹素材の利用から活動の理解・関心を高める活動」の取組。

小学 5・6 年生の 2 年間を通して計 4 回の活動を実施できる計画とする。

この活動から新たな活動に関する要望事項が小学校より示された。

「授業内容とリンクした活動にならないか。」「小

学生に理解しやすい内容にならないか。」というものである。そこで今年度は、この課題を解決すべく、以下の内容で実践し、高校生・小学生のアンケート調査により検証し、考察を加えた。

課題と検証1 「小学生との信頼関係を築く」

南小卒業生による活動説明の実施。

課題と検証2 「自分たちが学習したことを小学生に伝える」

プロジェクト発表から「生物多様性の考え方」を伝える。

他の植物の生物活用から「循環・共生の大切さ」を伝える。

課題と検証3 「思い出に残る、楽しい活動にするために」

「竹垣作り」や「棒引き」活動から活動の楽しさを伝える。

平成 24 年 5 月 25 日（金）13:00～15:20

内容：「事例発表とレクレーション活動」

小学 6 年 110 名 高校 3 年 8 名 + 2 年 4 名



棒引きの様子

この日は、予定していた下刈り作業が雨天により実施できなかったため、体育館にて小学生にわかりやすいように「生物多様性」について発表を行う。そのあと、孟宗竹を使った棒引きなどを体験する。このことにより、「生物活用」によるレクレーションで楽しく過ごすことができ、小学生

も竹について関心をもたせることができた。

平成 24 年 8 月 6 日 (月) 9:30 ~ 12:00

内容：「竹藪の伐採整備」に参加

小学 5・6 年生 200 名

高校 3 年 8 名 + 2 年 14 名

この日は、小学生 5・6 年生とともに隣接する竹林の伐採作業を行う。第 1 回でできなかった木々の下刈り作業と合わせて行う。この鬱蒼とした竹林の景観が明るい景観へと変化した様子を見て、小学生をはじめ高校生も活動の意義を感じ取ってくれたようである。そして、この日を持って 6 年生の活動は終了する。

平成 24 年 11 月 6 日 (火) 11:00 ~ 15:40

内容：「竹垣作成」

小学 5 年 105 名・高校 2 年 38 名



竹垣作成の練習 (上) と事前準備 (下)

今回、この整備事業の継続化をねらい、昨年度までは、3 年生主体による竹垣づくりを展開してきたが、今回の活動は 5 年生主体となり来年度の活動がスムーズに取り組めるようにと 2 年生 38 名で取り組む。

今回は 2 年生の実施であり、小学生にもスムーズに指導できるよう竹垣のロープワーク練習を授業の中で行い、本番に臨んだ。また、現場での事前準備は、3 年生 8 名が実施する。



竹垣作成の様子

#### まとめ

今回のアンケートでは小学生と高校生に「実習を受けてよかったか?」「実習に満足しているか?」との問いには、それぞれ 80%以上・90%以上の児童生徒が「よかった」と答えている。

高校生の感想でも「小学生と触れ合いながらの実習は新たにより多くのことを得られた。」と、この活動のテーマである「環境保全」が連携活動によって、より身近な存在となり、「次世代へ保全活動を継承していくこと」や「自ら考え、行動できる人づくり」につながっていくことを確信した。

#### 今後の課題

本年度の研究活動から来年度は「しが環境教育リーディング事業」の提携校との連携プランを検証する。また、「人と社会生活」をテーマに、より体験と校種間交流を重視した探求的な学習内容をつくり上げていくと共に、より効果的な指導を目指したコーディネート方法について考えていきたい。

学校名	滋賀県立八日市南高等学校
住所	東近江市春日町1-15
電話番号	0748-22-1513
E-mail	yokaichiminami-h.@shiga-ec.ed.